

第1回部会での主な意見

(全般事項)

- 各施策の効果・成果・課題を明らかにしてフィードバックしていくことが大事。
- COVID-19による影響を分析し、新しい課題に対応した施策が必要。
- 産学連携を加速するためには、企業や産業界側も大きく変わる必要。
- 一大学ではなく複数の大学で、連携した取り組みの促進が重要。
- 産学連携ガイドライン追補版により、組織対組織の連携が進んできたが、対価の取り方は従来型がまだ主流。対価の取り方の事例共有が望ましい。
- 産学連携でも若手を含む「人」が鍵。若手が活躍できる仕組みが重要。
- ベンチャーとか産学連携、実用化を目指す際の人・物・金が回る仕組みはできたが、運用上回りきっていない。
- 産学連携、起業の意識を持つ研究者へのサポートが重要。
- 予算や人材は限られているため、研究設備や人材のネットワーク化の視点も必要。
- 欧米のキャッチアップでなく、日本の強みを生かした産学連携が重要。日本より進んでいる事例は学ぶべき。

(地域の中核となる大学の振興)

- 地域中核大学という表現が重要。
- 論文数以外の評価軸が必要。大学の新陳代謝を後押しできる評価が必要。
- 指標のみで評価すべきではないが、少なくとも最新データを使用すべき。
- 大学ファンドも含め運営費交付金との関係の整理が必要であり、高等教育局との連携が重要。
- 国際競争力のある強みを特徴づけ、地域とともに強化できるかが鍵。
- 地域中核大学の産学連携には、理想と現実の間のギャップがあり、課題が多くある。
- 地域中核大学が産学連携のために資金調達できるような仕組みも必要ではないか。
- 地域中核大学のマネジメント人材の育成が重要。
- 共創の場で、採択されない大学の分析が全体の底上げにつながる。
- 地域の活性化には、スタートアップ創出の環境が重要。
- 地方大学は変えてはいけない部分もある。産学連携を通じた教育も重要。

(スタートアップ)

- STARTは評価できるが、ベンチャー設立後の成長に向け、地域と全国区両方にバランスよく質の高いマッチングのサポートが重要。
- 都市部との格差を感じるので、地域のエコシステム充実に向けたきめ細かな仕組みづくりが必要。
- ベンチャー投資額で、リーマンショックほどの減少はないが、日本では技術を評価できるVCが不足している。
- スタートアップが弱い地域もある。アントレ教育は座学だけでなく、実践的に学べるようにすべき。